

奈良市総合計画審議会（第12回）会議録			
開催日時	令和3年9月3日（金）午前10時から午前11時30分まで		
開催場所	奈良市役所 中央棟3階会議室（オンラインと併用）		
出席者	委員	伊藤忠通会長、山下副会長、伊藤隆司委員、伊藤俊子委員、大方委員、大窪委員、清水委員、山本委員（伊藤隆司委員、大方委員、大窪委員及び山本委員はオンラインによる出席）【8人出席】	
	事務局	向井副市長、西谷副市長、総合計画策定委員会委員及び委員代理（一部オンラインによる出席） 【事務局】総合政策課職員	
開催形態	公開（傍聴人 5人）	担当課	総合政策部総合政策課
議題 又は 案件	1 パブリックコメントでの意見への対応について 2 奈良市第5次総合計画（案）の答申について		
決定又は 取り纏め 事項	奈良市第5次総合計画のパブリックコメントへの対応案及び、答申案に関する審議を行った。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局より、本日は、出席委員が8名で、梅林委員、尾上委員、西尾委員が欠席、伊藤隆司委員、大方委員、大窪委員、山本委員がオンライン参加である。本会議については、公開とさせていただくとともに、会議録作成のため録音させていただく。 ・ 伊藤会長より、今回は、第12回である。前回は7月19日に開催した。様々なご意見をいただき、一部修正があったが、基本的な方向性はこれまで審議会で議論した内容とほぼ同じである。 ・ 今回は2回目のパブリックコメントの内容と対応等について審議を行い、その後、第5次総合計画（案）の答申に向けての審議を行う。 ・ まず、議題1について事務局から説明をお願いする。 <p>1 パブリックコメントでの意見への対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局より説明。 ・ 伊藤会長より、回答の内容あるいは修正点について意見があればご意見をいただきたい。今回、市民にご意見をいただき、修正した箇所としては、カーボンニュ 			

ートラルや奈良市の観光経済については、2025年に予定されている大阪・関西万博。あるいは、コロナ禍での教育面オンライン授業等に関する意見があった。その他、総合計画の理念やまちづくりなどの基本的なものから個別具体的なものまで様々な意見があり、今回は総合計画の記述としては修正しないが、今後、総合計画として推進していくなかで留意すべきことやそれぞれの分野における個別計画等で対応を考えていることもあるかと思うので、今後市のなかで意見を生かしてほしい。

- ・ 清水委員より、5名の意見があったとのことだが、その他のパブリックコメントと比べて意見は多いのか少ないのか。今の市民の関心ごとや反応はどうだったか。特にワークショップ参加メンバーからの意見はあったか。
- ・ 事務局より、今回ワークショップ参加メンバーの方からの意見はなかった。前は19名、今回は6名の意見があった。その他、電話で数件ご意見いただいた。期間が短いなりに前回並みの反応があったと感じている。
- ・ 大窪委員より、「施策4－(6)土地・景観の整備」の「主な関係個別計画」のところで、(仮称)奈良市立地適正化計画が確定していないので削除したとのことだが、その後に書かれている奈良市街地地域地籍調査事業計画に統合されているという訳ではなく別の計画であると理解している。そのため、まだ立地適正化計画が名称含めどんな形になるのか確定していないから計画から外しているということだと思うが、さすがに今後作る予定なのに入っていないのは問題ではないか。
- ・ 事務局より、計画名称は事務局でも悩んでいる。市議会に諮り令和4年4月に計画がスタートするなかで、計画が確定しているものを載せるほうがいいのかを考えている。全く策定しない訳ではないが方針が未確定な情報は載せないほうがいいのかという判断で載せていない。
- ・ 大窪委員より、作ることが確定しているのであれば審議中であるとか、名称を含めて検討中と書いてあってもよいのでは。記述内容を検討してほしい。無いと思われるのはよくない。
- ・ 事務局より、ご意見はごもっともなので、まだ確定はしていないが、市として作る方針がほぼ確定したのに関して、表現方法を含めて検討し、ご指摘いただいた部分を反映方法も含めて担当部署と協議し検討したい。
- ・ 伊藤会長より、第5次総合計画策定後新たに制定される個別計画について、第5次総合計画の進捗管理の様式で適宜追加するということが、進捗管理のスケジュールがどのタイミングでこのようなことが行われるのか分かれば知りたい。
- ・ 事務局より、計画の進捗状況は必ず年に一度はまとめて議会に報告する。個別計画と総合計画との結びつきを意識できるように、様式は作成途中だが手法を考えたい。
- ・ 伊藤会長より、総合計画審議会が答申した時点で終わると思うがその後、どういう形でどの場で公表されるのか知りたい。
- ・ 事務局より、確定するまでに決まったり変更になったりということをどのように公表するのかといったことでよろしいか。

- ・ 伊藤会長より、審議会が終わった後で決まった個別計画については、どこでどのようにオープンにされるのか知りたい。
- ・ 事務局より、策定まで議会の議論を経ることになる。議会の議論の間に確定した内容については、議会にも示しながら最終的な策定に盛り込んでいく。また、策定が終わった後に出てきたことは、様式はまだ決まっていないが議会に何らかの報告をしようと考えている。進捗報告のなかで新たに策定された計画というものも、しっかりここに紐づいているということを示していきたい。
- ・ 伊藤会長より、議会の場で、報告いただけるということであった。
- ・ 清水委員より、進捗管理について、市民の声を吸い上げる仕組みはあるか。アンケートを実施するのか。
- ・ 事務局より、アンケートか、例えばワークショップなど意見を聴く場を何らかの形で設け、聴取したい。アンケートが一番分かりやすいのではと思っている。行政だけでなく、市民も自分事として考えていただけるような仕組みを検討したい。
- ・ 伊藤会長より、パブリックコメントのご意見に対する市の考え方として基本的に対応や反映していきたいという姿勢がみられる。
- ・ 伊藤俊子委員より、資料1のNo.26「施策5－(2)市民参画と開かれた市政の推進」に対する「意見の要旨」への「市の考え方」として、これでいいのかなと思うところがあった。「連合会ごとに、まちづくり協議会が設置されていると思うが、補助金を出すだけでなくその議論や取組をどこかで紹介すべき」という意見に対して、私自身の地域もそれこそ、難産のなかこの3月に地域自治協議会が結成された。確かに補助金というものにはちょっと惑わされたようなところもあるが、その議論を紹介すべきという意見に対する答えの2行目に「市のホームページでも各地域の組織や計画などを紹介していますが」とある。それは市の言い分であって、本当にそのホームページを14ある地域自治協議会が目を通していいのか。それをもっとアピールしてその14の地域自治協議会のトップの人に、今回ホームページで流しますので是非見てくださいと、そして組織下の人へもっと説明も願うなど、もっとフォローしていかないといけない。「紹介していますが、今後しみんだよりの広報も検討していきます」とあるが、しみんだよりの広報に載るといのはありがたいことだが、このあたりでもう少し細やかに人とのコミュニケーション、人と行政と団体とのコミュニケーションを今しっかりやっていたらと、地域自治協議会と私たちは言っているが、結成した後に、続けているようなことをやっていくという意欲がだんだん無くなっていくような気がしている。市の考え方はもっともっとみんなで、申し訳ないが突き詰めていって、ここはこうしてほしいということを書いていきたいと思う。
- ・ 伊藤会長より、伊藤俊子委員の補足の質問。協議会ができたあと、協議会の代表が集まって話をする場、要するに自治会の地域の代表の方なので事情をよくご存じだと思うし、市民の意見も聞いてもらいたいと思うが、その場で地域が行政と地域の方達との対話の場を設けるようなプランや考え方はあるか。
- ・ 山下委員より、伊藤委員がおっしゃった中で、人口減少期・超高齢期、高齢社会

の状況にあって厚生労働省なり旧自治省なりが地域を何とかしないといけないということで、大きな2本の柱で動いている。各地のまちづくり協議会の様子を見ると、言葉は厳しくなるが、地域の各種団体にバラバラに補助金を出していたものを一元化して、結局絞ってくるための方策である。もちろん税収が減っているから絞らざるを得ない。その時に地域自治協議会が、どんなふうに関能するかで住民の参加協力の中身と方向性は大きく変わってくると思う。これについては市の方で慎重に、かつ積極的に住民さんの理解を得ながら参加意欲が高まるようにしていかなければいけない。そこが一番肝心なところだと思う。上手くいっていないところを聞くと、事務局長などにあまり理解がない人がきて、住民組織や団体を支配するような動きを見せてしまう、そうするとかえって住民の活動のやる気を阻害することが今までにあったので、地域自治協議会のあり方がどこでも上手くいっていると思わない。慎重に見ていくことが必要。前回も市長に申し上げたが、税収が増えることは今後考えられない。奈良の場合、観光はとても大事なので、そこは復活しないと行けないが、かつてのようなことにはならない気がする。その中でどうして町を守っていくのかということと地域のアクションが一体化することが大事だと思う。その点で慎重に、でも大胆に取り組んでほしいところ。

- ・ 市民部長より、貴重なご意見ありがとうございます。地域自治協議会は現在14地区で立ち上がっているが、どういった活動をしているか、これからも市民の方々にも広く知っていただくような取組をしていきたい。毎月一回地域自治協議会検討委員会を開催しており、既に立ち上がっている地域からの活動報告などを行っている。準備会を立ち上げている地域の会長らも参加していただき、組織の立ち上げに苦勞されている地域の方が既に立ち上がっている地域からアドバイスを受けるといった意見交換の場にもなっている。地域ごとに様々な課題もあり進みにくいところもあるが、地域づくりコーディネーターが地域に足を運び地域の課題解決に向けて支援ができればと考えている。
- ・ 伊藤俊子委員より、ホームページのほうよろしく願います。
- ・ 伊藤会長より、また話し合われた内容を還元してもらえたらいいと思う。
- ・ 大方委員より、人づくりの項目のところ、人づくりだけではなく観光も、市民も全てそうだが、「未来に生きる力を育む」ということを考えたい。いわゆるSDGsが掲げる「全ての人を取り残さない」という（2030年を目指した目標の最初の年）、国際的なことや、観光を考えると、奈良市は多くの意味でチャンスではないかと思う。具体的なことはともかく、そういうことを意識してやっている奈良市だというアプローチをするとよいのではないか。「未来に向かう」というのは次世代の子どものことであり、国際的に「そんなことも考える市ですよ」というアプローチは大切である。どこかにそういうことを入れられないのかなと思う。
- ・ 事務局より、具体的にどの部分になるか。
- ・ 大方委員より、「施策1－（3）学校教育の充実」。未来に生きる力というところである。結果としてはここだけではなくて全部に関わってくる。SDGsの問題

は、国連がやるとかそういうことではなく、身近なこととして子どもや教育を通じた保護者を巻き込むようなことが必要で、それを奈良市が上手くやれば国際的に日本の奈良だからこそできるとなれば、すごくチャンスだと個人的には思っている。

- ・ 教育部長より、SDGsの取り組み全般について、教育のなかでこれからどう取り組んでいくのかという具体的な方策を考えているわけではないが、17の項目のうち教育に取り込める部分については順次取り組んでいきたいというふうに考えている。
- ・ 伊藤会長より、私も教育部長の話聞いて総合計画の案の「【推進方針】総論 第4章計画の実現に向けて 6SDGsへの対応」を拝見している。ここにSDGsへの対応ということで、SDGs該当分野とあり、教育に関わる場所である。先ほどの大方委員のご意見の中で、ひとつくりにも学校教育充実の現状課題等含めて一言SDGsに触れておいた方がよいのではというご意見だと思うが、そういう捉え方でよいか。
- ・ 大方委員より、結構である。入れなければならぬと言っている訳ではなくて、具体的なことはともかく、そういう部分が、どこか最初のところでも構わないと思うが、一行でも意識しているということが入っていれば良いと思う提案である。あとは会長におまかせする。
- ・ 伊藤会長より、事務局と相談して、何らかの形で検討したい。
- ・ まだ時間があるので、今日が最後ということでできるだけご意見があれば賜りたい。細かいところは皆さんの方から検討の余地があるのではないかと思うが、今回の修正案含めて奈良市の考え方については概ね了解いただいていると思う。
- ・ 清水委員より、私は総合計画審議会に初めて入ったが、前のものと何が違うのかというと、これから税収が減ってきて市民をどんどん巻き込んでいかないとだめだということは、確かに当たり前だと思う。総合計画ができて、果たして前と何が違うのかというと、余程仕掛けを作っていないと、多分市民は巻き込めないと思う。したがって、最初に関心度を聞いた。巻き込む方法を考えないと、またできてそのままということになってしまう。その具体的な手法を伺ったら、議会で進捗管理するという話を聞いた。私は環境の方も入っているが、環境基本計画は進捗会議があって、全部指標に基づいて管理している。そういったものを個別でやっていったらいいのかなと思う。ただ、関わる市民が高齢化してきて、若者をいかに巻き込んでいくのかがなかなか難しく、どこの市町村、どこの他府県でもいわゆる団塊の世代が市民活動をやってきたが、その人たちが退きはじめているが、50・40・30代達が市民活動するかと言われれば難しい。それをどうやって打開していけばいいのか環境の方はみんな頭を抱えている。担い手がない。やる人がいない。だけど国からはカーボンニュートラルのようなことが言われるが、じゃあ誰が啓発していくのか、誰がやるのか、行政がするのか。同じように福祉もそう。貧困問題、フードバンクなどにも取り組んでいるが、地域はどんどん疲弊していつているのに、計画ができたなら、どうやって巻き込んで市がやっていく

のか、とても心もとない。関わった者としての実感である。今後どうしていくのかをぜひ話してほしい。

・ 伊藤会長より、今回の第5次総合計画のタイトルである、「わたし」からはじめる「わたしたち」のまちという言葉で表現されているが、先ほどのSDGsの話もそうであるが、改めてSDGsのところ「【推進方針】総論 第4章計画の実現に向けて 6 SDGsへの対応」を見ると、今回の総合計画の1章、2章、3章、4章、5章全ての章にわたって共通している目標は17番である。パートナーシップで目標達成しましょうということ。つまり、行政と市民とパートナーシップを組んで目標を実現していこうということ。そこが今回の第5次総合計画の重要なポイントである。清水委員がおっしゃるとおりどうやって巻き込んでいくか、どうやって市民の方々に総合計画の中身、具体的な政策・事業に関心を持ってもらって関わっていただくか。仕組みづくりがやっぱり重要だというご意見だと思う。

・ 山下委員より、また議論が後ろ向きになるかもしれないが、地域のことを地域で、ということをも盛んに訴えたいが、なかなか自分の生活とこのような計画が結びついてない。先ほど、大方委員がおっしゃったかと思うが、今の若い子は地元のことを知らない。親も教育ばかりを頑張ってきている訳である。地域のことを知らない。地域を知らない子は地元を大事にしない。そういうところの視点を切り替えていかないと前に進まない。それから、奈良市というローカルなところでSDGsのことをテーマに挙げたと。こういう私自身はSDGsをちょっと皮肉な目で見えており、これは国際同調圧力かと思っているところがあるが、否定はできない。このことをここに暮らす人間としてどう受け止めていくのかという訴え方をしていかないと頭の上だけで流れてしまうのはすごく気になっている。カーボンニュートラルは経済問題である。中国の電気自動車が売れるようにとか、日本の自動車が売れないようにとか、そういう競争のような問題背景を含みながら、誰にも反対できないことを言っているが、やらねばならない。奈良市として奈良市民としてどんなことに取り組めるのか、頭の上の議論ではなく生活に根ざしたところでどんなアクションを起こしていけるのかということと各担当のところを提案してもらうことが大事だと思う。「SDGsイコールいいことであるからやりましょう」はおかしいというくらいに思っている。大きな話とすごくローカルなアクションの話とをどう結びつけるのか難しいが、そういうことを意識して計画を進めていかないといけない。いろいろな意味で住民や市民がまちづくりの担い手なのだという形で計画を推進し、そのための進捗の管理をしていくのだということ。インセンティブをどこで生んでくるのかいつも議論になるが、契約だけで人の行動を規定するのではなくて、私はボランティアポイントというのも嫌なのだが、そういうインセンティブではなくて、どこで元気が出てくるのかということと、市民同士の対話の場面をどう作っていくかということと、活動している人たちとの交流だと思う。とても泥臭いが、福祉の方の市民のアクションから学んだ。対話と交流を広げていくことがすごく大事なところ。そうしていかないと、何か損か得かみたいな議論になっていくと難しいかと思う。大きな理念みたいな

ものを自分達の暮らしのなかでどう受け止めていけるのかということ、市民に訴えていかないといけない。前回の計画と違うのはここである。前回の計画は財政見通しが厳しいというところから話が始まっているが、もっと現実のものになっている。経済的にも萎んでいる、気持ちも萎んでいる、お互い励ましあう環境も萎んでいる。本当に厳しいのだと思うが、市民レベルでしらせることが無いように、私達がどう関わっていくのかということ、市として庁内で共有していただけるように期待している。もっと抽象的なことを申し上げるが、このなかのご意見にもあったが、理念が頭のとっぺんだけの理念だけではだめなので、自分達のありようを踏まえて理念、そんなことが進捗管理につながっていく。そこをしっかりと考えていけるような計画として理解されていくと望ましい。右肩上がりの時代ではない、そんななかで未来ビジョンをどう考えるのか、ということをお願いしていきたい訳である。わざわざ暗い話をしている訳ではないが、先をちゃんと見ていかないといけない、今と同じではだめだということ、今回はたくさん話した。

- ・ 伊藤会長より、基本的に大事なことだと思うが、要するに総合計画は最上位計画で大きなものだが、最終的な目的は市民生活がより豊かになっていくか、いかにブレイクダウンして市民の皆さんが肌で感じられるようにしていくか、対話と交流の場をどうやって作っていくかそこに尽きると思う。それが永遠の課題であり、今に始まったことではない。今回の総合計画はそういうところに重点的に視点を置いて進めていただければと思う。いろいろ今日も委員の皆さんからご意見を賜った。パブリックコメントについても市の考え方についてもご意見をいただいた。最後は事務局と私で調整させていただいて、進めて行くことでご了承いただけるか。
- ・ 異議なし

2 奈良市第5次総合計画（案）の答申について

- ・ 事務局より説明
- ・ 伊藤会長より、本日、いろんな意見をいただいたが、要は前回と今回の総合計画の違いがどこにあるのかということ、ポイントは市民と行政が一緒になって計画を進めていくことにある。そのあたりは答申の際に市長にぜひそのところを配慮いただいてご理解いただきたいということをお願いしたいと思う。それではこれをもって総合計画審議会の審議を一通り終えたことになる。先ほど事務局から説明があったように、皆様や市民の意見を反映し、最終的な第5次総合計画の案として市長に答申をさせていただくこととする。今回で12回目ということでスタートは令和元年であった。もう2年近くにわたって、委員の皆様からそれぞれのお立場でご意見をいただいた。パブリックコメントで市民の皆さんからもご意見をいただいて、最終的に総合計画の案としてまとめるということになった。今回で最後のため、改めて全般についてでも何でも結構なので、委員の皆様方からコメントをいただきたい。

- ・ 伊藤隆司委員より、少し間が空いてしまい申し訳ありませんでした。ずっと資料もお送りいただいてその経過は見ていた。私自身の仕事の方もそうだが、経済分野はコロナということで、この目標や指標が設定されている5年後の2026年に、世界がどういう社会になっているかもなかなか予測できないなかで、やはり粛々と目標達成に向けてやっていかないといけないと思っている。そういったなかで、行政と市民、我々民間企業がどういう形で一体となって取り組んでいくのか、そういったところが今後、重要になってくると思う。そういった意味で引き続きこれからも皆様方のご指導をお願いしたいと思う。
- ・ 山本委員より、今回が最終回ということだが、思い返せば今回の総合計画を作る意味としては、プロセスを市民と行政が共に作っていくというところにまずひとつあったと思う。ワークショップを開催して未来ビジョンをみんなで作っていったということに非常に意義があるという風に思っている。先ほど、清水委員からお話が出たと思うが、今後が非常に重要だと思う。これからこの総合計画の本冊と別冊（概要版）ができ上がっていくと思うが、だいたいこのような本・冊子というのは読まずに捨てられるという運命が待っている訳だが、今回はそうやってはいけない訳である。みんなで作った総合計画をみんなで実行しまちづくりに参加していく、じゃあそのためにはどうすればいいのか、特に別冊においてはしっかりと伝えていく必要があると思う。もちろん決まったビジョン、皆さんで考えたビジョンというのを伝えていくことも大事だが、それ以上に実はこのビジョンをいかにみんなで実現していくのかとそういう方法のようなものも、別冊の中に盛り込んでいけばと思う。例えば身近なところで言えば、こういう審議会の傍聴ができたり、あるいはパブリックコメントなんていうのもあったりすると思うが、存在さえ知らない人も多いのではないかと肌感覚で私は感じている。そういったところも含めて、別冊のこと、総合計画のことに加えて、市民参画がこうやればできるということもいかに伝えていくのか、これから総合計画がローンチされた後でも、ゴールではなくスタートとして考えていき実行に移していければと思う。
- ・ 大窪委員より、計画策定そのものはあくまでもスタート地点に立ったということ。いかに市民を巻き込みながら実現していくのかが全てである。そういった意味でも随時市民と情報交換ができたり、市民に対する進捗状況など分かりやすく透明性をもって共有できるような仕組みづくりが行政側に必ず求められる。計画を実現していく意味でも、市民との間の壁をいかに取り払って、情報を透明化し進捗を共有していくのかということのを念頭において運営して行ってほしい。総合計画の役割として、都市計画の中でも最上位計画になるため、その下に関わる各種の施策が頭出しされていることも重要である。各種個々の施策について、なぜそれをやらねばならないのかという理由が、総合計画に立ち返ると分かるという接着が重要。先ほど意見を述べた通り、策定中の計画でも書いておかないと、総合計画を上位計画としてここにポリシーに基づいて書いてあるということ、共有した上で策定、実現していくということが市民に伝わっていく仕組みが大事。個

別の策定中の計画も頭出しされておく必要があると考える。

- ・ 大方委員より、例えばSDGsをキャッチコピーとして、未来に向かう奈良市のビジョンが市民に良い形でイメージとして戦略として伝わっていく。単なる言葉や文章、冊子だけでなく、イメージとして奈良市が未来に向かって変わっていくというアプローチができればよいという意味で、既にあるSDGsが活用できないかと思った。奈良版をつくれればよいと思う。奈良はいいものがたくさんあり、それが見える形にしていくことで、日本全体に奈良発で、日本の良いところを未来の子ども達や奈良に住んでいる方にも伝えられ、奈良に住みたいと思える仕組みづくりにつながるのではと期待している。事務局・各部局のご尽力に感謝したい。
- ・ 伊藤俊子委員より、メンバーに入ってありがたく思っており、勉強させていただいた。当初お断りさせていただいたが、地域の1人のおばちゃん目線でいつも考えることを話して欲しいと言われ参加を決めた。自分も高齢者になるということで買い物難民が出るとお話ししたところ、市が移動販売車に大変力を入れていただいている。収穫をたくさんいただいて、勉強させていただいた。市民の意見に耳を傾けてもらえて良かった。
- ・ 清水委員より、事務局の尽力、各部局の協力がありがたかった。会長・副会長は発言しやすい雰囲気にしていただいてありがたかった。山下副会長の原点に立ち返る話に感銘を受けた。視点が広がり、東京出身だがますます奈良が好きになった。コロナ禍のなかで奈良の良さがよく分かった。
- ・ 山下委員より、奈良市役所で地域福祉計画に携わって今年で17年程になる。奈良への思い入れが強くなっており、冷静・客観的でない部分がある。ただ、人が動くのはエモーショナルな部分が必要である。地域が焦点になる時代は、社会のたがが緩んでいる、基盤が崩れかけている。そんな時に身近な人間関係で支え合わねばならないということである。今後、財政的には厳しくならざるを得ない。人口構成も特に厳しい。社会的な孤立も増えている。奈良は人口が増えていた経緯もあり地域の関係が薄い部分もある。一方、その気になって熱心に取り組んでいる地域もある。冷静に見極めねばならない。地域社会の衰退と再生は先進国共通のニーズである。奈良の場合は加えて人口減少と超高齢化も重なって加わる。これにどう立ち向かうのかが問われている。市民と行政の関係・関わり方が変わってきている。仕事の内容も直営方式が減って、企画・補助をするような行政の仕組みに変わってきている。市長のメッセージは1ページだけではなく、多めの主張メッセージでしっかり訴えていただきたい。ありきたりなものではなく、市民と共に考えていけるとよいと期待している。従来の地縁・血縁でなく住んでいるご縁で、奈良でこれから死んでいく訳である。命が大事にされるまちであってほしいと期待している。
- ・ 伊藤会長より、今回第5次総合計画策定にあたって、事務局・各課のご尽力もあった。未来ビジョンで奈良をどのようなまちにしていくかということだが、私も30年住んできてまちの見た目は変わってきているが、奈良の良さは変わっていな

い。総合計画策定にあたって、一緒にまちを作っていくという考え方、言い古された言葉でいうと「協働のまちづくり」だが、もうひとつ進んで、奈良市において行政も住民も全ての人々が共感できるまちづくり、即ち「共感のまちづくり」ということを言いたい。「共感」はわかりあえるものであり、身近に感じるができる。「協働」という役割分担があるイメージではなくて自分の気持ちで参加できることが大事である。それらが示されると未来の奈良市の精神的な方向性・羅針盤のようなものになる。SDGsは持続可能な開発目標であるが、考えてみれば奈良は1,300年続く持続可能なまちである。そこに本質がある。奈良市版のSDGsはそこだと思う。形式的ではない交流と対話の場作りが必要である。そういう町になっていけばよいと思う。私も、これからもできるだけ何らかの形で参加していきたいと思う。委員の皆様方にはいろんなご意見を賜り本当にありがとうございました。あとは、市長や市の職員の頑張りや市民の参加で総合計画が進められていくことを願っている。

向井副市長より、2年と長きにわたり大変お世話になり、貴重なご意見をいただいた。皆様の奈良市に対する熱い思いを感じ嬉しく思っている。このあと市長への答申をしていただき、議会に提案することになり、年度内に計画が確定する。策定がゴールではなく、今後これを確実に実行していくことが大事。この計画のもとには多くの具体的な個別の計画もある。その中で理念をしっかりと反映していきたい。ご指摘のあった市民参画が非常に大事で、進捗管理もしっかり市民の皆様を示そうと考えている。計画は5年10年と長いスパンのものである。時代の変化が激しいが、この計画は奈良市の最上位計画である。今後の変化にも適切に対応していくべきだと思う。パブリックコメントや委員の皆様からたくさんの意見をいただいた。本当にありがとうございました。それらを参考にこれからも「市民のために」ということを一番の視点に置いて頑張っていきたいと思う。

以上

資料	<p>【資料1】「奈良市第5次総合計画（案）」に対する意見への回答 【資料2】「奈良市第5次総合計画（案）」修正ページ</p>
----	--